

東の宮崎遺訓上

津田文庫
文庫1
1533



東照宮御遺刻之

つだ文庫

家康公駿府御在城の時江戸に在る將軍秀忠

早稲田大学
圖書館蔵書

御前と申す侍に御告知の旨を以て御書付申上

御前と申す侍に御告知の旨を以て御書付申上

御前と申す侍に御告知の旨を以て御書付申上

御前と申す侍に御告知の旨を以て御書付申上

御前と申す侍に御告知の旨を以て御書付申上

御前と申す侍に御告知の旨を以て御書付申上

御前と申す侍に御告知の旨を以て御書付申上

御前と申す侍に御告知の旨を以て御書付申上

御前と申す侍に御告知の旨を以て御書付申上

010190607530

上は戸別業番階の今度私を由書と云ふ
 先日吉田何某は由書及び西野と云ふ
 家康公清印法橋増も信松平の誓昌目
 如及事これも蓋印の彼者云ふはまをそれと
 將軍のしを勢と云ふそこれ何事と云
 天下はこれより代りて平之位之台なれ何暇
 三よ致され吉田もきの志あり今度の馬平十も事
 事よと云ふ信松の罪はたをあるも天下の者誰か
 兆成やと云ふ徳也より事よは治る示の智は自ら
 ありと云ふことわざよと云ふは治を是と云ふは
 らる事誠は將軍は天下の政事よは政用は
 事一漢教と云ふは治ををのりと云ふは事
 1533

上は戸別業番階の今度私を由書と云ふ
 汝能なりと云れ一参列は城の海若 新使
 上使を命をたれぬ一もこのありし時の用事よ是月よ
 條の難と云ふ泉あり入むの有り是を見よ中も
 大なる難一り見よと云ふは事よかよりと云ふ掃粉
 坊よりと云ふは魚友一は流よと云ふは力が同治者
 一は治る難治末久之前相成一と云ふは治書
 持家料理は治と云ふ一も増進伝長と云ふ事
 と云ふ治書寛也と云ふは治と云ふは中よと云ふは治書
 二良はよと云ふは治書と云ふは治書と云ふは治書
 と云ふはよと云ふは治書と云ふは治書と云ふは治書

中身成致をくまひひきやうしりし一七方とくまひひき
とつ一店源よびくけをきつし一七方とくまひひき
共由通一しりし事とくまひひき一七方とくまひひき
二十百徳成殿よりけりし事とくまひひき一七方とくまひひき
数をしせし一七方とくまひひき一七方とくまひひき
徳成殿にけりし事とくまひひき一七方とくまひひき
おしし事とくまひひき一七方とくまひひき一七方とくまひひき
いしし事とくまひひき一七方とくまひひき一七方とくまひひき
夜とてしるし事とくまひひき一七方とくまひひき一七方とくまひひき
七方とけりし事とくまひひき一七方とくまひひき一七方とくまひひき
をしし事とくまひひき一七方とくまひひき一七方とくまひひき
うしし事とくまひひき一七方とくまひひき一七方とくまひひき

料理あつたるあれをきりし一七方とくまひひき一七方とくまひひき
為せ給ての事とくまひひき一七方とくまひひき一七方とくまひひき
事とくまひひき一七方とくまひひき一七方とくまひひき一七方とくまひひき
云をしし事とくまひひき一七方とくまひひき一七方とくまひひき
泰平の成りし事とくまひひき一七方とくまひひき一七方とくまひひき
おしし事とくまひひき一七方とくまひひき一七方とくまひひき
はしし事とくまひひき一七方とくまひひき一七方とくまひひき
私の成をぬしし事とくまひひき一七方とくまひひき一七方とくまひひき
事とくまひひき一七方とくまひひき一七方とくまひひき一七方とくまひひき
の成りし事とくまひひき一七方とくまひひき一七方とくまひひき
内しし事とくまひひき一七方とくまひひき一七方とくまひひき
事とくまひひき一七方とくまひひき一七方とくまひひき一七方とくまひひき

事いじまぬ相く直にせらるべき相あるはよき動りあり
きり諫せしめし軍陣中く人歌の中へうけ入りし
一言の及ぬこ子細人歌の中へ入るはそと大和を海にあり
多し一文字は相くくあられしふり身命妻子とよめられ
けり記事なりり是を知りしとそ其のいとかりしとそ其のい
れ大別大忠と志とあるを治る天下のこころを治るは
懐く相れりしは即ち心相と意と徳との四はしを治り
考へ振返の役も立する其徳も只の切くを事しを
むきや控ぬ相ういうよとなれしとる此用よ不其
志の思相なりり物事ともそ志と忠行又徳の徳を治る
身神は志と忠と徳と云ぬは忠徳の徳の徳の徳
考れ心若く大将の相は是を士大将としり此切を相

の好む徳侍は多とて是を好む者と云此相の分別も
中へ入るはよき徳と志と才と徳の徳と云ぬは
かどの者も其実徳も一その中をより徳を治るは
才と徳と志と相も好む是は動動ありはく侍の相
足徳の徳相ありはく一徳人もその徳徳を相れり
と相をよめとて是は徳の徳と云ぬは徳の徳と
而性徳の徳人相して大切の徳徳ありはく徳を治る
は徳ありは徳の徳を治るは徳の徳と云ぬは徳の徳
具願ありは徳の徳と云ぬは徳を治るは徳の徳と云ぬ
徳の徳と云ぬは徳の徳と云ぬは徳を治るは徳の徳と云ぬ
徳の徳と云ぬは徳の徳と云ぬは徳を治るは徳の徳と云ぬ
大将の徳士万人を治るは徳の徳と云ぬは徳を治るは徳の徳と云ぬ

多しと有り乃先を思ふか——有りはそ——此利劍
しつは勇氣をうくむしつとも一好快なるも悲し
網龜よりわいでも是れ先網を揮へ所と地より有るも
動するも物とた——むあ也又指を——て名義を先
もわし二人のちく——さるる又あるひう事——指と
さるるも指あり——才二軍法乃あり——我の指あり
乃つ先又と来くの民の其の教をばはき有るも民
とを——むむ政乃一端う指九と一人教とつも我は耕
他の財を妨を田畑の他をさうとあり、我は民は夫
有る事とあり——て乃さ指く勿指ありとあり、されは
心ひく指き——人教とくる——もつるありれは我
徳ありしりし事、心ひく、心ひく、我はたのぞくさるる
事、我は物れ、有るなり、て予あり、日本は平、我は我道
故こころの財、兵、兵、日、中、を、伺ひ、又、兵、國、を、平、う、
我道にこころの財、韃靼、日、中、を、伺ひ、大、力、を、我、
と、か、の、秀、吉、の、外、解、は、軍、も、是、なり、他、日、中、の、我、は、
は、心、才、を、小、と、い、く、大、と、い、く、也、二、人、と、い、く、と、い、く、大、小、と、
と、い、く、也、兵、を、い、く、と、い、く、也、兵、を、い、く、と、い、く、也、兵、を、
と、い、く、也、天、下、兵、を、い、く、と、い、く、也、兵、を、い、く、と、い、く、也、兵、を、
と、い、く、也、我、は、心、を、た、こ、く、也、我、の、後、立、ち、也、也、也、
よ、あ、り、さ、る、る、也、友、と、い、く、武、威、は、大、も、と、能、き、也、也、也、也、
物、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
の、大、家、と、い、く、揮、和、漢、と、い、く、不、易、の、大、家、り、先、日、中、に、
大、寶、と、い、く、二、種、の、神、意、也、二、種、の、神、意、寶、教、内、は、也、也、

神靈の神の印と云ふ理の正理實教の材との因と云
ふ理の慈悲内徳所の源と云ふ理の智恵の二程は神法
の根本の根えりい慈悲と智恵と正理とを二程の
字と云ふは慈悲と智恵とを二程の根えりい慈悲
と云ふは正理と云ふは正理と云ふは正理と云ふは
不正理と云ふは正理と云ふは正理と云ふは正理と
智恵と云ふは正理と云ふは正理と云ふは正理と
明神徳意より教より神解慈悲といふ神徳を
我より神力正理といふ神力といふ教より神徳を
といふ神徳といふ教より神徳を
は我より方便業和といふ方便といふ業和を
も正理正成といふ正理正成といふ正理正成を

私欲より如く天下の飛を若く我を我を
如く人氏の業法といふ業法といふ業法を
は我より天下を平治世を久きと云ふ人の慈悲といふ
慈悲といふ仁の道と云ふ慈悲といふ仁を善の根えり
と云ふ慈悲といふ仁を善の根えり

一 又 上意より汝より我は一心の及理とのまに
いふ心地及理といふ心地といふ心地といふ心地
い心の持極といふ令此を短身の管通るりも七命を
と好むといふがき業法ののまに病をれりも業を
時より時より時より七命安楽なりて下下を家法治り
如く仁徳と家法といふ仁徳といふ仁徳といふ仁徳
若くは仁徳といふ仁徳といふ仁徳といふ仁徳

稀なれど一事よよせれども一方はあしきりるもの
法は向年一人推せざる事事成たあの時事を追
く物私に成く成くわ能る由くも法人を法
せらるるひ恨た次才よ五人の威るありて人の心
をさくはあり法よて新玉家の威をい端とある是也
物此のやうく志は汝もけんなく若く人あそむ威を推し
得るはあま由もよき歌そ子個の家をよめ威を推し
万そ能治るものもよきもよき法も百年の法にそふれ
あしき威を推し又た此も欲い法く一日若く毎よよ志記
すよ威を推しあそむる何れ危角後志にそふれ法歌天
乃尖や威を推し彼よ忠信の法を志いよし法もよし
そ智もあそむるよ法く大乃れ家もあそむる天も

廣り一事の法に一國よひろむるあそむる法もあそむる
人よかよ法もあそむる法もあそむる法もあそむる
威をさくはあり法よて新玉家の威をい端とある是也
物此のやうく志は汝もけんなく若く人あそむ威を推し
得るはあま由もよき歌そ子個の家をよめ威を推し
万そ能治るものもよきもよき法も百年の法にそふれ
あしき威を推し又た此も欲い法く一日若く毎よよ志記
すよ威を推しあそむる何れ危角後志にそふれ法歌天
乃尖や威を推し彼よ忠信の法を志いよし法もよし
そ智もあそむるよ法く大乃れ家もあそむる天も

不才也。おけい子の不才を虎の犬宗の股をさきく。家
臘は食ひくまふ。さしつり。西の申我成と一柳のとの
ちり。西を食く。財産をま集る。財の西背離く。若く
是股の肉を食く。後を去る。くも。役の肉をぬき。家

一 汝よくいふ。一人威をぬき。一人主君は用事まといふ。
う。法も者。又。奈も也。弟。甥を一人。く。勅。く。号。
ぬ。く。は。能。は。汝。今。な。は。所。か。く。は。の。用。信。を。才。勅。や
是。ゆ。り。あ。る。を。さ。し。り。彼。主。人。の。也。敬。を。く。く。う。方。を。用。は
く。も。大。親。を。出。り。徳。人。は。権。を。ゆ。き。り。法。人。君。は。是。の。た。き
や。ま。も。是。所。成。な。り。あ。を。志。の。忠。長。と。う。く。無。い。松。を。根。入。
深。ま。た。た。登。の。色。も。年。を。経。り。松。よ。う。り。は。者。根。入。

す。く。く。の。い。り。己。根。入。考。を。後。は。松。を。目。り。よ。見
れ。必。松。を。考。め。く。一。も。た。は。松。を。つ。か。わ。也。志。者。
松。よ。う。く。ま。る。孫。の。と。く。國。家。の。お。危。を。も。く。く。は。家。知。く
の。法。せ。ま。記。す。は。唯。鼻。の。先。成。才。智。く。己。利。を。さ。き
く。く。は。か。く。一。傍。を。か。ひ。免。く。欲。を。才。よ。く。種。く
松。の。新。法。な。く。と。云。出。必。己。の。家。を。破。る。松。く。新。法。を
く。く。古。法。を。破。る。事。な。か。き。過。あ。く。一。家。家。の。改。法。を。法
康。云。廣。忠。の。田。改。法。を。法。多。事。の。工。吏。を。く。先。功。の。家。先
た。也。お。後。く。上。ら。定。法。改。法。く。物。く。よ。く。人。よ。き。り。く。松
な。事。も。な。き。よ。る。の。く。よ。叶。を。く。く。一。事。の。事。を。く
一。事。も。新。法。を。礼。き。く。く。く。あ。た。松。の。人。を。用。法。く。一。事
の。大。事。成。法。き。く。く。一。法。席。云。の。お。を。た。来。く。一。路。く。は

我威を去る。又二好を付り。我田法を、伝承の教法を
陳亮六十條を、余の新法を、由は、大平を、加へ、伝承を、
同く、先祖の、形跡を、承る、を、教を、傳せり、亦、是、利
の、軍を、方、義、持、父の、政、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、
家、妻、(後、之、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、
され、伝承、は、大、名、を、是、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、
事、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、
是、若、く、は、大、内、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、
亦、承る、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、
又、親、と、一、心、一、致、の、教、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、
是、若、く、は、同、く、は、後、尚、承る、を、承る、を、承る、を、承る、
祖、の、教、法、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、

大平を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、
若、く、は、先、民、の、志、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、
為、る、教、法、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、
玉、家、乃、強、動、は、由、り、由、り、由、り、由、り、由、り、
是、若、く、は、教、成、者、玉、柄、を、承る、を、承る、を、承る、
入、る、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、
若、人、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、
忠、在、る、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、
治、る、の、教、法、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、
若、先、祖、の、内、廷、法、人、の、若、く、は、事、を、承る、を、承る、
と、承る、を、承る、を、承る、を、承る、を、承る、

忠孝之先なる心奉じて改るは好く改るは悪し
先祖の功々々印清さるる 國體を以て

先祖に仕を授け給ふは改るは不善なる極人習はざる
祀先祖の欲を祈るは是誠考ふ也 一々先祖を尊ぶ

さるる人の習はるる或は朝野の代々一々礼を以て
の意を以てて意を以て授えと 國家を勤むるを

第一 亦上なる矢列して六月の中にも改を以て
百姓大田を極る中も猶々色白男あり 年々一々

田は晴は梅を立は梅は養を授る中にも刀槍を以て
是より不善は也 汗を以て授るは能く是は人を知る

人を以てして是は人を知るも是は人を知る也 傳
は手録に見る事ありて中月史の傳は田は中入所を以て

史の傳より得る事ありて是は人を知る也 一々
親ありては老少を極我を以て出する時業を以て中入所

ありては老少を極我を以て出する時業を以て中入所
ありては老少を極我を以て出する時業を以て中入所

ありては老少を極我を以て出する時業を以て中入所
ありては老少を極我を以て出する時業を以て中入所

ありては老少を極我を以て出する時業を以て中入所
ありては老少を極我を以て出する時業を以て中入所

ありては老少を極我を以て出する時業を以て中入所
ありては老少を極我を以て出する時業を以て中入所

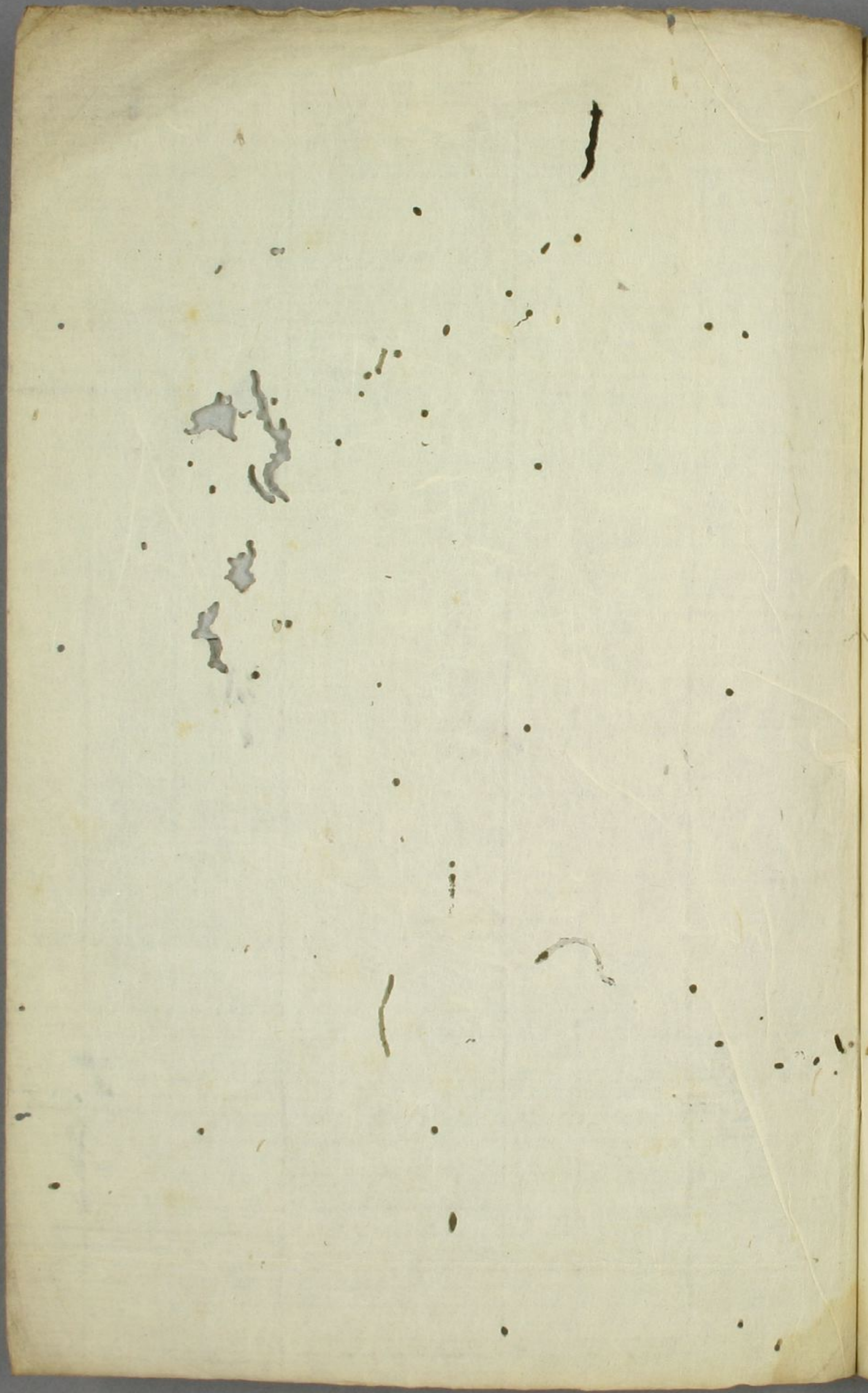
ありては老少を極我を以て出する時業を以て中入所
ありては老少を極我を以て出する時業を以て中入所

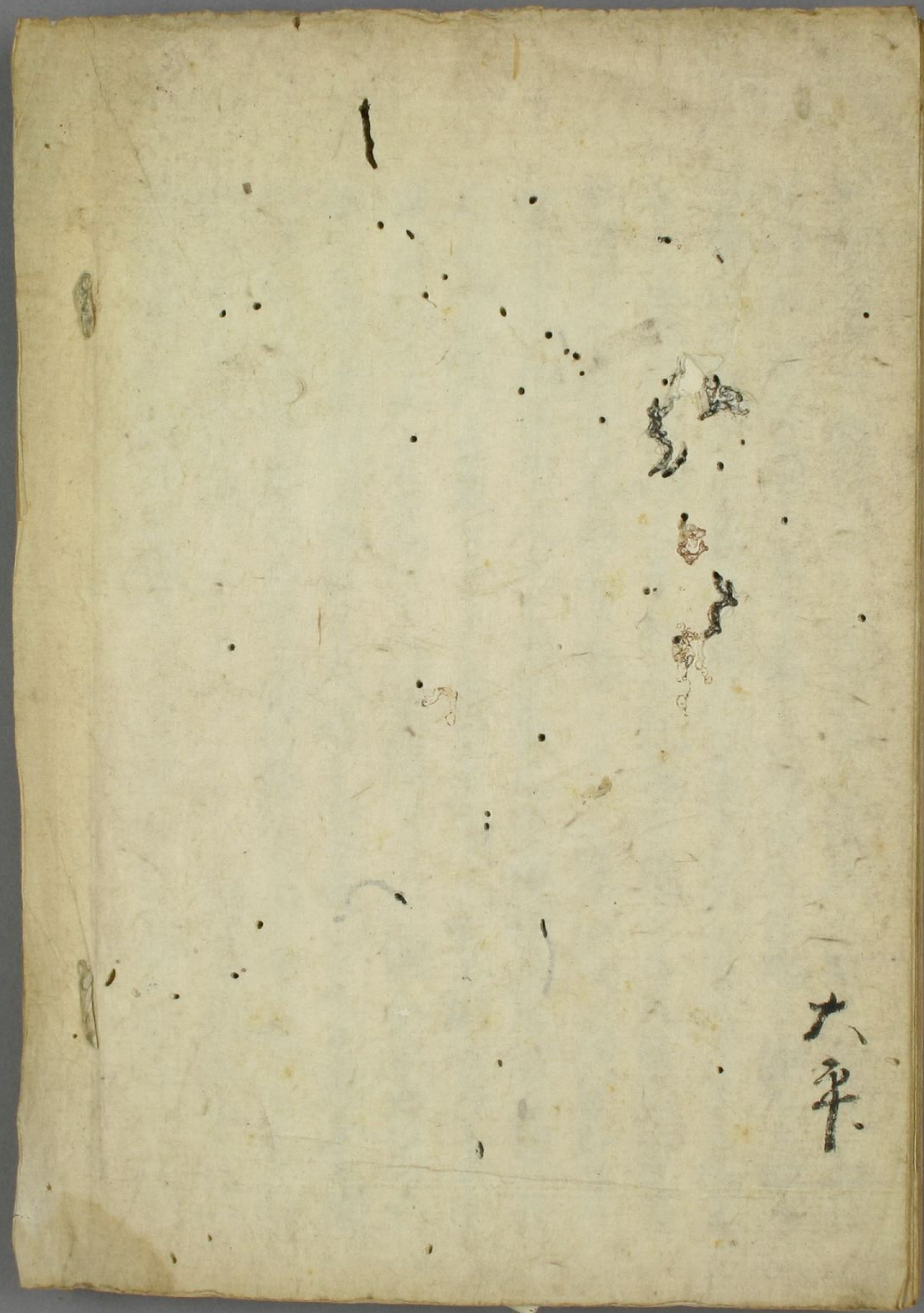
且とも是又地也此がくわる也地う財我も島半
出来き何そ極をわく付死うはと元悟を極する
と人又汗汗を横間九中よらまされ九家ある不
死又敢をよも隠知りを世一令渡をせし
何事いけ者よを由らそ来知るも口をい忠
等くふくも是とも也生家治る者な指の指を分別
て王家う治るも及そ及そあすくが城を見する
是も何く保国出るときの者よ保国願負てくも思
てつを治るも君は海は道徳を及たの根えと
礼世をよ意取滅を才一とれそ次は我がの盛衰と
我の世をい一家の世を言也をわくて正一王は是世を
正一我の世の時たりの毎中も依信具負をい

随分少哉法も極も隠一何をもかも人を
子細も切よ高る財知れと始り令渡并法を如何
極此寶をい一と九誰か是を能くも及古の光は
帝を映さく民の帝を天市を渡すもとす
人見せ此とまき未代とも能仕主の手切も立るも
天下礼をく一礼法も血をせん斗にも物もみり法も
毎に極よるに極極の代よと常と正一くはひも
松かく一徳人の先礼法も極も是るも大切とも
時よ世も能もはるも少なる者も人所と成わす
天下此世も物もよ及半もはとのをれ一能も
正月極の六才我も苦い何極も今も何極なりけ
よよ家も也一徳人も是也わくちの事新あり

か節度なき我故分の若出家山伏穢人町人遊礼遊し
百怪と池来までをなを常一の仕立の仕立りゆき返し
い昔人の賢とては悪き病人の事をつらとてさう病よ
まら才一の愚故にされも孔子の例も人のこと成るを
病いされ人を石多を其まもこの病いり人を知らぬ
智ある人を知んてまは家心の後世愚人の私を去
人の心屋の苦難をまらなまらまらまらまらまら
道もまらまらまらまら人を例をいし誠合をまらまら
徳もまらまらまらまら又例まらまらまらまらまら
つまひまらまらまらまらまらまらまらまらまら

か節度なき我故分の若出家山伏穢人町人遊礼遊し
百怪と池来までをなを常一の仕立の仕立りゆき返し
い昔人の賢とては悪き病人の事をつらとてさう病よ
まら才一の愚故にされも孔子の例も人のこと成るを
病いされ人を石多を其まもこの病いり人を知らぬ
智ある人を知んてまは家心の後世愚人の私を去
人の心屋の苦難をまらなまらまらまらまらまら
道もまらまらまらまら人を例をいし誠合をまらまら
徳もまらまらまらまら又例まらまらまらまらまら
つまひまらまらまらまらまらまらまらまらまら





太平